



ー クラブライフが心とからだと暮らしを変えるー

「元気なとやま」をつくるためスポーツクラブによる生き生きとした暮らしを提案します。

日本におけるスポーツの大切さを伝え、サポートしていきます。



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

巻頭インタビュー Interview

バスケットボールbjリーグの富山グラウジーズは、県内初のプロスポーツチームとして発足し3季目を迎えた。熱心なファンの支持を集めて地域に根付きつつある。就任して1年になる篠田豊行社長にチーム経営の現状やスポーツビジネスにかける思いを聞いた。



多くの方により安く見てもらいたい

富山グラウジーズ社長 篠田 豊行

■2007年12月の就任から約1年になります。富山のファンの印象は?

富山のブースターは熱い。おとなしいイメージだったが、特に女性の元気のよさには驚いた。なかなか勝てないので、会場で意見されることも少なくないが、「チームのために何かしたい」という一生懸命さが伝わってくる。熱意に応えて、一緒にグラウジーズを発展させていきたい。

■紆余曲折もあった富山のチームの経営を、県外在住の篠田さんが引き受けられた経緯を聞かせてください。

前社長と旧知の仲で、グラウジーズに出資したのが縁の始まり。昨季途中に経営体制を整備する中で社長就任を頼まれて受けたことにした。本業はマーケティングで、スポーツビジネスとしては、松木安太郎さんが、監督時代の東京ヴェルディに関わった経験がある。現在、理事長を務めているNPO法人もスポーツ振興を活動テーマのひとつにしている。だが、グラウジーズの試合を見て面白いと思っていなかったら、正直、引き受けていなかった。バスケットボールが、それだけ魅力あるものに感じた。グラウジーズの株式については、より多く県内の方に持っていたいけるよう交渉している。経営を軌道に乗せ、地元の方に社長職を引き継ぐのがよいと考えている。

■経営、集客についての戦略を教えてください?

「たくさんの人により安く見ていただきたい」というのが、わたしの考え。サッカーが好きな方にもバスケットボールの面白さ知りたい。そして、チーム経営も安定するのが理想。

今季はシーズンパスのセールスに力を入れた。経営の安定と、安く見てもらう両方の狙いがある。目標は2000枚だが、まだ少し届いていない。昨年末からの世界的な大不況の影響もある。シーズンパスの単価は、単純に試合数で割ると1試合当たり2階席であれば約700円になる。グループで購入していただき共有してもらうイメージを描いていた。だが思っていたほど浸透しておらず、来季は工夫したい。



TOYOKI SHINODA

1951年、東京都生まれ。商社勤務などを経てマーケティングコンサルタントに。07年12月から富山グラウジーズ社長。「下町の生まれです。剣道やボクシングをやってきて、今は団体競技の面白さを感じています」。NPO親善クレセールプロジェクト理事長。

スポンサーは、グラウジーズの小冊子への小口協賛も含めると100社を超えた。メインとなるユニフォームの胸スponサーの影響力は大きく、マクドナルドの支援は我々にとって金額以上に価値があると感謝している。観客は1試合3000人を目指しているが達成できていない。収入面で計算通りにいかない部分があり、今季は赤字の見込み。経営のために最低限の収入を確保できる体制を早く整えたい。

チームの認知度をさらに高める必要があると思い、選手やダンスチームの「G.O.W」は、要望があれば、自治体や企業さん主催のイベント、すべてに参加した。来季は、もっと規模の小さな体育館でも試合を開催し、まだ見たことのない方に、観戦に来てもらいたい。

■スポーツビジネスの可能性をどう考えていますか。

バスケットボールに縁のなかったわたしでさえ感動する魅力がある。球技だが、格闘技的な激しさもあって迫力がある。NBAに比べると技術は劣るが、プレーを目の前で楽しんでもらえるのはbjリーグならでは。光と音を使った演出も楽しんでほしい。地域におけるスポーツは、子供たちに夢を与える存在でなければならない。若者からお年寄りまでが、夢を託し、うきうきと楽しい気持ちになれるチームでありたい。

ビジネスとしても未開であり、やりがいのある分野だ。だが、株主に不利益は与えられない。最低限、損をさせるわけにはいかない。そのうえで、スポーツチームの株主であることを誇りにしていただけるようにしたい。株主、経営者、ファンが、それぞれの役割を担ってチームを支えるかたちを目指していきたい。富山県は地域的にまとまりがあり、ファンにも情熱がある。国内に前例はないが、スポーツチームをみんなで所有する方法のひとつである株式上場の可能性まで感じる地域だ。



Kouji Uozumi

スポーツと福祉の親和性

お出かけ支援募金の開始にあたり

社会福祉法人富山県共同募金会

魚住 浩二
主任

「福祉」とは何か考えてみたことがありますか。お年寄りの入浴や食事の介助、障害のある方の自立訓練などの福祉サービスを思い浮かべた方もいらっしゃると思います。サービスは日常生活の必要な要素を満たしますが、生活や人生の目標の達成を保証するものではありません。わたしたち共同募金会は、「福祉」とは「ふだんのくらしのしあわせ」を実現することであると考えています。障害があっても高齢になっても、住みなれた地域で“自分らしく”暮らしたいという多くの方の思いをかなえるのが願いです。そのための地域での活動を応援しています。

この願いは、今回の富山スポーツコミュニケーションズ(TSC)と共同募金会の協働事業である「スポーツ観戦お出かけ支援募金」にも込められています。県内では観戦型プロスポーツが活発になり、私たちは気軽にスポーツが楽しめるようになってきていますが、一方で、子どもやお年寄り、障害のある方などの中には、介助や付き添いが必要だったり、移動手段の確保が難しかったりして外出する機会が少ない方や、ルールや戦術を知らないために十分に楽しむことができない方も少なくありません。

スポーツ施設のバリアフリー化は進んでいますが、気軽に出掛けるには十分な整備状況とはいえず、受け入れ側の障害への理解が進んでいないケースもあって、彼ら自身が外出に消極的になってしまっている場合もあります。

TSCと共同募金



フェリオ前に掲げられた横断幕

会は、すべての人々が地域の中で健康で楽しく豊かな生活を送ることが福祉であるとの考えに立っています。スポーツは本来、いつでも誰でも気軽に楽しむことができるものだと思います。誰もがスポーツ会場へ足を運び、外の空気や雰囲気を楽しみながら、ボランティアや仲間とふれあい、交流を深めることができる機会を創り出すことが今回の企画の目標です。高齢者や障害者の社会参加や子どもの健全育成を図り、普段の生活をより豊かなものにしていただきたいと願っています。

また、スポーツ観戦が、障害者や学生、子ども、お年寄りが世代、障害のバリアを越えてふれあう場にもなります。多くの来場者の方が福祉について関心を寄せ、募金という方法で気軽に福祉活動に参加する機会も提供できます。「福祉のまちづくり」に寄与することができると考えています。

「喜びのおすそわけを」という募金テーマは、私たちがスポーツを通して感じている喜びを、支援を必要とする人もそうでない人も、同じ地域で暮らす一員として、みんなで一緒に共有していくこうという思いを表現しています。「出会い」や「ふれあい」が生まれ、「支えあい」につながっていく企画でありたいと考えています。

また、スポーツのいろんな人や組織をつないでくれる力にも期待しています。募金活動や観戦招待、観戦ナビゲーションなどの実施を通じて、関係機関や団体と協力、連携することが、障害のことや接する際にどんな配慮が必要かなどを多くの人に知ってもらうきっかけになると思います。高齢者や障害のある人などの暮らしにプロスポーツ観戦を取り入れることで、心や身体の健康増進に効果がみられるならば可能性はさらに広がるかもしれません。

ご招待した方々が生き生きとしているか、楽しんでいるかどうかは、その場の空気でなんとなく分かるものです。言葉で表せなくても、「福祉」がどういうものであるべきかを、そこで感じ取ることができます。今後、みなさんも招待者の方々と接する機会があれば、声を掛けてみてください。頑張ってプレーしている選手たちを見て、元気や喜びをもらっている姿からは、私たちが励まされ、勇気づけられることもあると思います。この元気や喜びの循環こそが、スポーツと福祉の融合なのかもしれません。

子どももお年寄りも、障害のある方もない方も、みんなが一つになり、ともに喜び、楽しむことができる生活を築いていきたいと考えています。本企画を通して、「福祉」に対する理解が深まる事を願っています。



10月1日▶12月31日

赤い羽根募金
共募金



グランドプラザでの募金活動

じぶんの町を良くするしくみ。

分かち合おう！ スポーツ観戦の楽しさ

スポーツ観戦お出かけ支援募金スタート
県共同募金会と協働し、福祉施設の利用者を招待

富山スポーツコミュニケーションズ(TSC)は、富山県共同募金会と協力して「スポーツ観戦お出かけ支援募金」を始めました。社会福祉施設を利用する方をスポーツ観戦に招待する企画で、皆さまからいただいた募金を送迎バスの費用などに充てるものです。お年寄りや心身にハンディキャップをもたれている方々をはじめ、より多くの人とスポーツを見る楽しさを共有するため、助け合いの輪を広げていきたいと考えています。

初回は08年6月21日、野球のBCリーグ公式戦(富山市民球場)に児童養護施設ルンビニ園の皆さんを招待しました。7月13日のBCリーグ公式戦から募金活動をスタートし、各種スポーツ大会主催者、団体の理解をえて寄付を募っております。募金は866,500円(09年3月現在)が寄せられており、09年2月までに6つの福祉施設をBCリーグ、サッカーJFL、バスケットボールbjリーグの試合に招待いたしました。

会場での対応には、各大会の主催者をはじめ、富山短期大学から派遣いただいた学生ボランティア、TSCスタッフのボランティアら幅広い支援をいただいております。

募金は以下の銀行口座で受け付けております。今後とも、ご支援、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

(福)富山県共同募金会 スポーツ観戦お出かけ支援募金
北陸銀行 県庁内支店(普)5026190



アルペンスタジアムでの募金活動

赤い羽根共同募金は、「福祉のまちづくり」「児童の健全育成」「高齢者・障害者の社会参加」をはじめとした地域福祉の活動に役立てられています。募金の約7割は身近な地元での活動に充てられており、TSCの小型レシーバーによる観戦ナビゲーション事業も、富山県共同募金会からの配分金を活用してスタートしました。TSCも、おでかけ支援募金や観戦ナビゲーションなど、スポーツを通じて暮らしやすい地域づくりに協力して参ります。

スポーツクラブが創る地域社会

JCYクラブマネジャーズセミナーを受講して

=08年12月6、7日（東京・JFAハウス）
TSCコーチ、近藤 寛朗（富山大学3年）

地域スポーツクラブがはっきりとしたビジョンを持ち、安定・継続的な運営によって、さらに発展していくためには、クラブマネジャーの役割が重要です。マネジャーの能力向上とネットワーク構築をテーマにJCY(日本クラブユースサッカー連盟)がセミナーを開催しました。クラブ経営について、行政や法律、経営学など様々な視点から講義があり、受講者同士の意見交換も行われました。

地域スポーツクラブは、これから発展していくビジネスモデルであり、素晴らしい可能性を持っていることが確認できました。これからは、行政と企業だけでなく、地域住民が協力してより良い「まちづくり」を進めていくことが必要です。地域スポーツクラブは行政・企業と市民の間に入って、市民が

思い描く「まち」を具体的に実現させていくことが可能です。市民のニーズを把握することは、地域に根ざし、多くの人と関わるスポーツクラブだからこそできると言えます。

また、地域を基盤としたスポーツクラブには、スポーツを続ける環境や、スポーツ関係の雇用を提供し、スポーツを通して豊かなライフスタイルを創出する力があります。クラブがより良い運営を目指す過程で、関わる人々の生活を充実させていくことができます。

セミナーの翌日には、講師の方が運営する「つくばFC」(茨城県)の施設を見学しました。そこには、クラブが独自に作った夜間照明のある芝生グラウンドがありました。さらには、行政に芝生のグラウンドを作るノウハウを提供し、公共のグラウンドを緑に芝生化して「まちづくり」に貢献していました。スポーツ環境の整備や市民中心の「まちづくり」を実現することは、難しいことのように考えていました。しかし、正しい知識を身につけて地域スポーツクラブを運営していくれば、不可能ではないということがわかりました。「サッカーで人を幸せにしたい」—これが、私の夢です。その夢を実現するための糸口をつかむことができ、とても有意義なセミナーでした。



JFAハウスにて発表する近藤コーチ

TSCスクール紹介 —— パワーヨガ教室

オフィス帰りに心身をリフレッシュ

開始から3年目を迎えました。パワーヨガは、ヨガをスポーティブにアレンジし、運動量が多いのが特長。ボディメイキングに効果が大きいといわれています。会場は、富山市桜橋通りの「富山電気ビル」で、オフィスからの帰りにも気軽に寄っていただけます。インストラクターは場家てる美さんです。毎週水曜日18時15分～19時15分。月会費5000円(入会金別)。お問い合わせは電話090(5176)0075、または電子メールsaeki@toyama-sc.comまで。



08年度よりビジョンを改訂!!

Mission Vision

富山スポーツコミュニケーションズは04年12月の設立以来、ビジョンの一つとして「Jリーグクラブつくりを地域クラブの立場から支援することによって、子供から大人まで県民に夢と感動を与えます」を掲げてきました。カターレ富山が誕生し、その目的を達成することができました。このためビジョンを改訂し、環境の変化に対応して「スポーツマンシップの提唱」「スポーツによる人材育成・確保」などを新たに盛り込みました。これからも、ビジョンの実現に向けて日々努力して参ります。

TSCのミッション

「クラブライフが心とからだと暮らしを変える」をモットーに、「する・見る・話す・働く・支える」の喜びを感じることができ、自ら楽しみ、夢を育くむことに貢献します。

TSCのビジョン

■スポーツによって生きがいある社会、のびのびと過ごせる環境を提供します。

お互いが人として尊重し合えるスポーツマンシップを広く提唱し、すべての年齢層がスポーツを通じた生きがいを得られる環境を作ります。少子高齢化や核家族化が進行する社会にあって、中・高齢者の余暇充実と健康増進、子供の心身の教育に寄与します。また青少年が身近に「夢」を持ってスポーツ活動に取り組むことを可能にし、支えあいながら克服する素晴らしさを体感できるようにします。

■富山に誕生したスポーツクラブを支援することによって、子供から大人まで県民に夢と感動を与えます。

夢を語れる子供、若年層と高齢層との交流の場を増やすため、富山におけるスポーツクラブを支援します。スポーツを「行う」だけでなく、様々な視点による試みを行い、県民全体の一体感を醸成します。それにより地域社会や家族間での共通話題を増やし、全世代に夢を育みます。

■スポーツによって豊かな地域コミュニティの形成を図ります。

様々なスポーツコミュニティを形成することによって、県民全体のコミュニケーション能力向上の場、情報発信源として地域を活性化します。

■スポーツと暮らしを一体化させます。

誰もが気軽にスポーツクラブを楽しめるよう地域住民の手でつくりあげることによって、スポーツを常に‘携帯’し、クラブライフを生活の一部とすることを可能にします。

■スポーツによって「元気なとやま」を創造し、富山県を大きくアピールします。

全国に誇れる富山を創造するため、スポーツに貢献する人材の育成やプロスポーツクラブの発展に寄与するとともに、「元気で健康なとやま」のイメージを全国に伝えます。県内で人材を育て活用することで全国的・世界的なニュースを発信します。



開設コース案内



スポーツを知ろう!

* サッカーをはじめスポーツとは何か? 勉強会を開いて豊富な知識を学んでいます。Jリーグ観戦ツアーやスポーツ観戦は割引になります。



U-12スクール募集中!

* 運動神経が大きく発達するこのタイミングでは楽しんでスポーツを行い、年代を超えて交流することが重要です。JFAコーチライセンスを取得した大学生や若手コーチが「育てる」という視点でスクーリングします。



U-18スクール募集中!

* 社会性が培われなくてはいけないこの年代では、全体の中での個々の役割などサッカーを通じ、楽しんで学ぶことが重要です。中学生と高校生年代が異世代交流することで体感できます。また、U18リーグや社会人チームとのゲームを楽しめます。



参加申込: 氏名・電話番号・参加希望コースを添え直接TSCへお申ください。

携帯090-5176-0075 TEL/FAX 439-9277



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

事務局

〒930-0818 富山市奥田町 12-41-203

Tel.Fax.076-439-9277

E-mail (pc) saeaki@toyama-sc.com

URL <http://www.toyama-sc.com>

編集後記

富山に待望のJクラブが誕生しました。クラブ設立に尽力された方々をはじめ、富山県のサッカーを担ってこられたすべての皆さんに感謝いたします。Jリーグは活動理念として「百年構想～スポーツで、もっと、幸せな国へ」を掲げています。カターレ富山という推進役を得て、まちと人にどんな変化が生まれるのか楽しみです。

Vol.6 発行日: 2009年4月1日

[発行日] 年3回

[発行] NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

[発行人] 佐伯仁史

[編集人] 赤壁逸郎

クラブライフが心からだと暮らしを変える